

編集後記

「出版するか、さもなくば破滅か」とアメリカの研究者の社会では言われるそうである。研究者というものは、研究職というポストについている者のことではなく、現在研究している者という言葉であるから、研究していない研究者は自己矛盾である。研究の成果や途中経過を、授業としてばかりでなく、活字の形で社会に公開し、また専門を共有する知的共同体に貢献することは、その研究者がプロフェッショナルであるかぎり、最小限の責務であることは、アメリカだけでなく日本においてもそうあらねばならないことである。

文学論叢第八十四輯を刊行できることは、愛知大学が人文系の研究機関としても現実にも機能していることの証である。この証がどれくらいの水準に位置するかは、読者諸子の判断に委ねるしかない。

文学論叢の刊行は、寄稿者はもとより文学会の会務員や私以外の編集委員の努力なしにはできなかった。関係者各位の努力に感謝したい。

ところで、文学論叢は学生会員の会費によって維持されているにもかかわらず、すべての会員に配布されずに、在庫が倉庫の空間を圧迫していることは、たいへん心苦しいことである。改善のために努力したい。

(S)

昭和六十二年三月二十日 印刷
昭和六十二年三月二十五日 発行

(非売品)

編者 愛知大学文学會

代表者 湯本和男

印刷所 豊橋市小池町
東邦印刷工業所

發行所 豊橋市町畑町
愛知大学文学會

振替 名古屋 三十四五六五四